足の外科班　　　　　　　　安田稔人、嶋洋明、東迎高聖、中村玄、平井佳宏

　足関節はスポーツ傷害の頻度の高い部位であり、下記のような様々な外傷、疾患に対して治療を行っています。スポーツ傷害に対しては早期に診断を確定し、鏡視下手術により早期のスポーツ復帰を目指しています。また変形性足関節症や扁平足、外反母趾などの後天性変形に対しても専門的に研究を進めていくことも可能です。

●スポーツ傷害

陳旧性足関節内側•外側靭帯損傷

距骨離断性骨軟骨炎や足関節インピンジメントに対する鏡視下手術

アキレス腱傷害（新鮮、陳旧性アキレス腱断裂、アキレス腱症）、腓骨筋腱脱臼

疲労骨折（Jones骨折、舟状骨疲労骨折など）、母趾種子骨障害

●足部変形

外反母趾（第１中足骨近位回外骨切り術とプレートによる内固定）、内反小趾

扁平足（各病期別の種々の扁平足手術）

麻痺性足部変形に対する骨切り術や関節固定術

変形性足関節症に対する骨切り術や関節固定術

シャルコー関節（中足部、後足部の関節固定術）

●リウマチ足

前足部変形に対する関節温存手術

中足部、後足部の関節固定術、人工足関節置換術

* 創外固定器を用いた変形矯正手術、脚延長術

●絞扼性神経障害

足根管症候群、Morton病

●骨折後遺障害

骨折遺残変形による変形矯正手術

踵骨骨折後の距骨下関節固定術